



# 中央区

面積 .....※10.12km<sup>2</sup>  
 世帯数 .....97,358世帯  
 人口 .....172,193人  
 (うち外国人) .....8,144人  
 予算 .....1,248億円  
 職員数 .....1,654人

※境界の一部が未定のため、国土  
 地理院発表の面積とは異なる。  
 出典元：中央区政年鑑

## 歴史・見所・名所

中央区は江戸開府以来、400年以上にわたり日本の文化・商業・情報  
 の中心として繁栄・発展してきた、長い歴史と伝統を誇る由緒ある  
 まちです。明治維新後の文明開化では、いち早く銀座に煉瓦街が建設  
 され日本の近代化をリードするなど、いつの時代においても先駆的な  
 役割を担い、飛躍・発展を続ける活気とにぎわいにあふれています。

昭和22(1947)年3月15日に日本橋区と京橋区が統合され、中央区は  
 誕生しました。その名の示すとおり、23区のはほぼ中央に位置し、両国  
 橋下流の隅田川右岸に沿って帯状の広がりを見せる日本橋・京橋地域  
 と、隅田川河口近くに位置する佃及び明治以降これに隣接して埋め立  
 てられた月島・晴海から成り立っています。

面積はわずかに約10km<sup>2</sup>ですが、歩いて巡ることができるこの小さな都  
 市には、江戸五街道の起点であり現在も日本国道路元標がある「日本  
 橋」、有名百貨店や世界のファッションブランドが集積する「銀座」、  
 江戸文化を今に伝える「歌舞伎座」、食文化の拠点である「築地」、そし  
 て豊かな水辺環境に囲まれ高層建築と下町情緒あふれるまちなみが調  
 和する「佃・月島」など、多彩で個性に富んだ魅力が凝縮されていま  
 す。

## 概要

中央区の区域は東西両端が最長距離で約3km、南北間で約5.5kmであ  
 り、面積は約10km<sup>2</sup>と23区中2番目に小さな区です。

中央区の人口は、平成9(1997)年に過去最低となる71,806人にまで  
 減少し、都心の空洞化や地域活力の低下が深刻化しました。このまま  
 ではまちのにぎわいが絶たれてしまうという強い危機感のもと、区の  
 総力を挙げ定住人口の回復に向けた総合的な施策を進めてきた結果、  
 平成18(2006)年4月に10万人を達成、その後も人口は増え続け、令和2  
 (2020)年4月に昭和29(1954)年以来66年ぶりに17万人を突破しまし  
 た。さらに、晴海地区では東京2020大会選手村跡地の住宅開発により  
 新たなまちが形成されるなど、今後も人口増加が想定されています。

将来の20万都市をしっかりと見据え、中央区に住み、働き、集うす  
 べての人々が幸せを実感でき、子どもたちが夢と希望を持てる社会を  
 実現するため、活力ある中央区の発展を目指していきます。

## 主要課題・将来展望

### ① 魅力あふれるまちづくりの推進

本区においては現在、築地市場跡地の再開発をはじめ、首都高速道



世界のショッピングストリー  
 ー銀座。観光・グルメも楽し  
 めます。



首都高日本橋区間地下化後の  
 イメージ(再開発の計画は現  
 時点の情報に基づいたイメ  
 ージです。)

出典：首都高速道路日本橋区  
 間地下化事業パンフレット  
 (令和2(2020)年6月首都高  
 速道路(株))



新たなまちの形成が進む晴海  
 地区(手前は東京2020大会選  
 手村跡の住宅)

路日本橋区間の地下化や都心部・臨海地域地下鉄構想、首都高速道路築地川区間およびKK線(東京高速道路)の上部空間を活用したアメニティ空間の創出など、将来を担う都市基盤整備のプロジェクトが動き始めています。区としても、こうした都市基盤整備の機会を捉え、持続可能なまちづくりに向け、魅力ある水辺空間やまちの連続性に配慮した緑豊かな歩行者ネットワークの形成、さらには防災力の強化や地域コミュニティの醸成を進めていく必要があります。ソフト・ハード両面において都や関係機関と連携しながら、まちづくりを一層活性化させていきます。

## ② 歴史的・文化的資産の保存・継承と活用

本区は江戸以来の名所・旧跡をはじめ、伝統工芸や地域に伝わる祭りなど数多くの歴史的・文化的資産を有しています。こうした貴重な文化資源は、永く保存・継承すべき区民の大切な財産であり、また、区をPRする重要な観光資源でもあります。

まち全体をミュージアムとするイベント「中央区まるごとミュージアム」や地域住民自らが神輿などの文化資源を展示・公開する「中央区まちかど展示館」、名所・旧跡などの観光スポットを巡る多様なツアー、さらに、文化資源を活用した観光プロモーションなど、区民が歴史・文化に触れる機会の充実とともにその魅力を広く発信する取組みを多角的に展開していきます。

## ③ ゼロカーボンシティ達成に向けた取組み

本区は、令和3(2021)年3月、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ中央宣言」を行いました。活発な経済活動等により多くの温室効果ガスを排出している自治体として、本宣言に基づき、脱炭素社会に向け率先して取り組んでいく必要があります。

行政区域を越えた広域的な地球温暖化対策である「中央区の森」事業や中央エコアクト(中央区版二酸化炭素排出抑制システム)の充実、再生可能エネルギーの積極的な導入促進など、区民、事業者、区が一体となりながらゼロカーボンシティ達成に向けた取組みを一層加速させていきます。

## ④ 誰もが安心して笑顔で暮らし続けられるまち

定住人口の増加に伴い、行政需要は拡大、多様化しています。区を取り巻く社会環境が大きく変化する中で、区民の安全・安心をしっかりと守り、長く住み続けたいと思えるまちを創りあげていくため、子どもから高齢者まで、一人ひとりに応じたきめ細かなサービスの展開が求められています。

子どもの健やかな成長を支え、子育て世帯を応援するさまざま取組みに加え、健康づくりや医療、介護などが連携し、高齢者を地域全体で支える地域包括ケア体制のさらなる充実、さらには、こうした地域包括ケアシステムの考え方を発展させながら、人と人、人と地域の資源が世代や分野を超えてつながり、支え合うまちづくりを広げていきます。



まるごとミュージアムではバスや船で区内を巡り、文化的な魅力に触れることができます。



夏の終わりを告げる「大江戸まつり盆おどり大会」。2日間にわたって開催され、多くの人でにぎわいます。



築地場外市場の活気とにぎわいを継承する拠点「築地魚河岸」